



ひなんじょ ころが
[避難所で心掛けること]

こどもが ^{あんしん}安心・^{あんぜん}安全に
^す過ごせる ^{ばしょ}場所をつくる

- ▶ ^{さいがいじ}災害時も、^{こども}子どもにとって ^{べんきょう}勉強も ^{あそ}遊びも ^{だいじ}大事
- ▶ ^{こども}すべての子どもが ^{りよう}利用できるようにする



子どもが安心・安全に過ごせる場所をつくる

■ 状況シートの説明



▶ 場面ごとの説明

- ①「いっせーの一せつ」「いちぬけー」。みなとくん、だいちくん、しんたろうくんは、避難所の中で楽しく遊んでいました。
- ②すると、「おい、うるさいぞ! 他の場所で遊びなさい」と、おじさんに叱られてしまいました。
- ③周りを見回してみると、体育館の中は人でいっぱいです。なかには、具合が悪くて寝ている人や膝を抱えて泣いている人もいました。怒られた3人は、「○○○○○」

▶ セリフの例 (気持ち)

- 「叱られちゃった」
 「遊ぶ場所、どこにもないね」
 「ここでは遊べないなあ。どうしよう」

▶ 発問例

- ・避難所はどんな様子ですか？
- ・みなとくんたちは、どうして叱られたのですか？
- ・遊びたいけど、遊ぶ場所がない。みなとくんたちはどうすればいいですか？

■ 教訓シートの説明



- ・多くの避難所では、子どもの遊び場がありませんでした。また、周りのたいへんな様子を見て、遊ぶことを我慢する子どもがたくさんいました。体調が悪い人や高齢者の近くなどは避け、周囲から目が届く安全な場所に子どもの遊び場をつくり、子どもも大人も過ごしやすい避難所をつくりましょう。

▶ 災害時も、子どもにとって勉強も遊びも大事

- ・避難所は人や物でいっぱいです。
- ・たくさんの人が物資の仕分けや配布、炊き出し、連絡、話し合いなどで、忙しくしています。
- ・このような状況下でも、子どもたちは安心・安全に過ごせる場所で、勉強したり遊べる必要があります。

▶ すべての子どもが利用できるようにする

- ・子どもたちの年齢はさまざまで、勉強したい子どもや遊びたい子どももいます。
- ・いろいろな子どもたちが参加できるような場にしましょう。

■ 東日本大震災の教訓

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは避難所で「こどもひろば」を開設しました。知らない人たちと集団生活を送り、周囲の深刻な様子を感じていた子どもたちが集まり、身体を動かしたり、学んだり、楽しく表現する場です。子どもたちが毎日決まった時間に参加することで、日常を取り戻し、回復力を高めるための一助となりました。